2025 年 6 月 10 日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長　丹羽俊介様

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会
代表世話人 熊谷清人
〃　　大坪勇
〃　　北林強

抗議文

6 月 9 日から「リニア長野県駅（仮称）」の橋梁工事に有害残土が大鹿村から運び込まれました。

私たちは 9 日に運び込まれることを聞き及び、決して住民は納得していないことを示し、抗議の意志を示すためにスタンディングを行いました。その折、御社の現地スタッフに私たちの「声明」をお渡ししようとしましたが受け取りそのものを拒否されました。そこで改めてこの抗議文を提出いたします。

私達住民の会は今日に至るまで、ＪＲ東海と飯田市・長野県に有害残土持ち込みをやめるよう働きかけを続けてきました。
この間、ＪＲ東海と飯田市に提出した署名は 7081 筆となります。署名に現れたこうした多数の声を無視し、「人の住む場所に有害物を持ち込む」という今回の暴挙は、これからもこの地で代々暮らしていく住民にとって、極めて残念な悲しむべきことと言わざるを得ません。満身の怒りをもって抗議するものです。

私たちは 1 年前に学習会を開きヒ素の発がん性などの有毒性を確認してきました。そしてそもそも現場で掘り出した残土を活用すればよいだけで、わざわざ遠方から中詰め材として有害残土を運び込む必要がないことを明らかにしてきました。この工事は「発生土活用」に名を借りた廃棄物処理以外のなにものでもありません。今回の工事が要対策土が鉄道の駅工事に使われるのは初めてのケースになり、ケーソンの中詰め材として要対策土が使われるのも初めてという事実が示すように環境破壊・生活破壊そして常識外れの暴挙です。

地域の発展を期待して泣く泣く移転した住民の期待の詰まった「リニア長野県駅（仮称）」の工事に有害残土を使うという今回の工事は、ＪＲ東海の地元無視の象徴ともいえる行為です。

今回、ＪＲ東海と飯田市で確認書が交わされ、市長から「確認書の内容の履行と水質の測定値をチェックする組織を作る」との表明がされました。これは 6 回に及ぶ私達の市への申し入れの中で、「最低限の責任」として飯田市に求めてきたものです。
JR東海には誠実にこの確認書の履行を行うことは当たり前ですが、これだけでは当然に住民の不安が解消されるはずがありません。

また、この地域では 28 年には風越山トンネルの本坑工事が本格化するなど、工事騒音・振動、水涸れ、地盤沈下など住民環境へのよりいっそうの深刻な影響が懸念されます。

ＪＲ東海には、住民への影響の軽減を最優先の課題とし、ごまかし無く、真摯に住民と向き合い、住民への影響が明らかになった場合なども誠実に対応するよう求めます。